

令和7年 8月 20日



岩倉市議会議長

須藤智子 様

日比野 走

研修受講報告書

このことについて、下記のとおり受講しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和7年 7月 31日 (木)
- 2 研修先 地方議員研究会(京都 JA ビル) 黒瀬講師 財政の質問ポイント

3 復命事項

、別紙のとおり

財政の質問ポイント

地方議員研究会講師 黒瀬雄大

議員は「債務負担行為」「継続費」「繰越明許費」の3つの違いを厳密に説明できる必要はない。しかし、財政担当の言う黒字が、普通の感覚の「黒字」なのかそうでないのかは認識出来なければならない。また、政治思想はともかく、財政の見方については当局に説明の役割があるため、理解が困難でも恥じることはない。

予算決算審査の時の質問は「1人いくら？」を確認する。

近隣の自治体と比べてなぜ高いかを説明させるのが肝。運営形態の違いを加味（直営か？委託運営か？それらの損得は？自治体毎のスケールメリットも意識する。）

（例）

- ・夏祭り費用補助 100万円→来場者1人に1000円渡している感覚を持つべき（？）
- ・法律無料相談 200万円→1回あたり5000円

利用者は何人か？

市民に認知されているか？

特定の人間に独占されていないか？

中長期財政計画の必要性

地方自治体の財政は原則「単年度主義」であるが、事業の持続可能性を担保するには中長期的な財政見通しが不可欠。市側は、将来の収支見通しや財源確保策をテーブルに出し続けるべき。

実質単年度収支の確認

表面的な黒字・赤字ではなく、実質的な単年度収支を精査する必要がある。特に、赤字補填のための繰り出し金には注意が必要。法定外繰入が行われている場合、財政の健全性に疑問が生じる。

また、一部自治体では、国民健康保険料を繰入金で引き下げる手法がメジャーとなっている事があるが、これは独立採算原則に反する可能性がある。

質問ネタ探し

「日経ゲーロカル」や「月刊地方自治」「月刊地方財政」の雑誌もあるが、立証責任を執行部に持たせるには国の公式見解をぶつけるのもおススメ。

決算審査意見書

決算審査意見書は行政自身が発表する課題の宝庫である。

(例)

- ・ 確認漏れ等のケアレスミス連発→ 担当課の確認。対策の是非。
- ・ 支給根拠を設けて適切な措置を→ 対象の詳細、支出の根拠を伺う。

実質収支ではなく、単年度収支を見る。

歳入歳出差引

歳入決算総額から歳出決算を引いたもの。形式収支の赤字黒字だけで、単純に財政状況を判断することはない。実質収支や単年度収支を算出する基になる。

実質単年度収支

単年度収支に黒字要素となる基金の積立額に加え、赤字要素となる基金の引き出し額を引いたもの。単年度収支が赤字でも実質単年度収支が赤字なら、それは貯蓄を切り崩してのやりくりが行われているということなので、継続しているならば警戒が必要。

財政危機を察知するポイント

財政危機に陥るパターン

- ・ 無謀な投資
- ・ 繰り出し金増加
- ・ 実質単年度収支の悪化
- ・ 基金の取り崩し

基本的に人口や第三機関の収入減、身の丈に合わない投資を経て自治体収支の悪化し基金の切り崩しや公債増加というパターンで財政危機に陥る流れになっている為、そこに目を光らせる必要がある。

所見

財政においての赤字黒字を目で追うのは実質収支ではなく、実質単年度収支に注目していかなければならない事を知ることができた。実質単年度収支が一時赤字でも狼狽えることはないが、2、3年続くのであれば注視しなければならない。

財政危機に関しても黒字化するには各自治体によって課題は区々であるが、赤字化には法則性があるので、それらを端的にも押さえておけば財政を見ることは出来ることを教わった。

また、財政の説明責任は当局にあるので恥ずかしがることは無いとわかり、より意欲的に財政について学んでいく為の意欲も得られた。

9月の決算委員会ですべて学んだものを生かせるよう臨む所存だ。